





重点分野3 (中目標)		東アジア地域を越えた日・マレーシア開発パートナーシップ												
開発課題 (小目標) 東アジア地域を 越えた 日・マレーシア 開発パートナー シップ	【現状と課題】 2010年、マレーシア政府は他国に対する技術協力等による二国間及び地域間協力であるMalaysia Technical Cooperation Programmeの監督省庁を経済企画庁から外務省へ移管し、支援対象国との政治・経済の関係強化を進めている。マレーシア自身の対途上国支援(南南協力)をサポートする我が国の協力は、マレーシアの政策と整合しており、また、マレーシアの援助能力強化に資することから、日・マレーシアの従来の援助国・被援助国という垂直的・片務的關係から、国際社会の共通の発展を目指すためのパートナーとしての関係を更に強化する段階に来ている。					【開発課題への対応方針】 ODA卒業移行国入りに伴いその位置づけの重要性が増してくるマレーシアのドナー化、具体的にはマレーシアの近隣諸国、アフリカ、イスラム地域等に対し、マレーシアの開発経験を共有するための支援を拡充する。なお、上記の支援にあたっては日本とマレーシアによるコストシェアを基本としつつも、受益国による費用負担の可能性を検討していく。								
	協力プログラム名	協力プログラム概要	プロジェクト名	スキーム	2013 年度 以前	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	支援額 (億円)	備考			
	南南協力推進プログラム	マレーシアの開発経験/強みやJICAの協力アセットを活かした南南協力案件の形成・実施を支援する。同時に南南協力の一層の実施を促進するためのパートナーシッププログラム形成を促進する。	カンボジア・ラオス向け開発計画プロジェクト管理	第三国研修										
			統合的な生物多様性・生態系保全	第三国研修										
			カンボジア・ラオス・ミャンマー向け職業訓練技術教育	第三国研修										
			カンボジア向け職業訓練技術教育	第三国研修										
			カンボジア・ラオス・ミャンマー向け税務行政	第三国研修										
			アフリカ諸国向けTQMおよびカイゼンを通じた生産性および競争力強化	第三国研修										
			アフリカ諸国向け中小企業振興	第三国研修										
			アフリカ諸国向け投資促進	第三国研修										
アフリカ諸国向け貿易振興			第三国研修											

【凡例】 「協準」(=全ての協力準備調査)、「詳細設計」(=詳細設計)、「技プロ」(=技術協力プロジェクト)、「開発計画」(=開発計画調査型技術協力)、「個別専門家」,「個別機材」,「国別研修」,「課題別研修他」(=課題別研修及び青年研修)、「JOCV」(=青年海外協力隊)、「SV」(=シニア海外ボランティア)、「第三国専門家」,「第三国研修」,「現地国内研修」,「科学技術」(=科学技術協力(技プロ型及び個別専門家型))、「草の根技協」(=草の根技術協力)、「〇〇省技協」(=外務省・JICA以外の省庁及び独立行政法人等が実施している技術協力)、「民間提案型技協」(=開発途上国の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業)、「無償」(=以下に特記するサブスキームを除く全ての無償資金協力)、「ノンプロ」(=ノン・プロジェクト無償及び中小企業ノン・プロジェクト無償資金協力)、「草の根無償」(=草の根・人間の安全保障無償)、「日本NGO」(=日本NGO連携無償)、「一般文化」(=一般文化無償)、「草の根文化」(=草の根文化無償)、「有償」(=円借款)、「マルチ」(=国際機関等を通じた多国間協カスキーム)、「中小企業支援」(=中小企業製品・技術とODAのマッチング事業「ニーズ調査」,「案件化調査」および「普及・実証事業」,かつ中小企業連携促進基礎調査)、「実線「———」」(=実施期間)、「破線「- - - -」」(=実施予定期間)